

第5回通常総会

1990年6月29日(金)

平成2年

J S A I 人工知能学会

JAPANESE SOCIETY FOR ARTIFICIAL INTELLIGENCE

〒151 東京都渋谷区上原1-32-19 三善コーポ201号室

TEL.03-485-6641 FAX.03-485-6642

第5回通常総会議事次第

日 時 1990年6月29日(金) 15時～19時

場 所 東京郵便貯金会館会議室“瑞雲”(5階)および“孔雀”(4階)
〒106 東京都港区芝公園2-5-20 TEL.03-433-7211(代)

総会次第 1. 特別講演：15時～16時<会議室“瑞雲(ずいん)”>
演 題 [実世界の観測と行動]
講 師 辻 三郎氏(大阪大学)

2. 通常総会：16時～17時<会議室“瑞雲(ずいん)”>

- 1) 開 会
- 2) 会長挨拶
- 3) 議長選出
- 4) 1989年度事業報告
- 5) 1989年度決算報告、監査報告
- 6) 1990年度事業計画
- 7) 1990年度予算
- 8) 1990年度役員構成
- 9) 1990年度評議員構成
- 10) 1989年度論文賞選定結果報告
- 11) 法人化移行準備の経過報告
- 12) 閉 会

3. 懇親会：17時～19時<会議室“孔雀(くじゃく)”>

1989年度事業報告(案)

1. 概要

学会設立4年目を迎え、引き続き理事会および各委員会を中心に学会の基盤強化を進めるとともに、第3回全国大会の開催、会誌の隔月発行、懸案の人工知能ハンドブックの発刊、研究会活動に重点を置き、学会活動の活発化、会員サービスの充実をはかるとともに、大会第1日目の7月24日で設立後3年経過するのを機に、法人化へ向けて具体的な準備をスタートさせた。また、海外関連団体との協調活動を推進するため国際委員会を設置し、さしあたって国際会議2件を今秋開催するための準備に着手した。

7月24日から3日間にわたり学習院大学で開催した第3回全国大会は、前回は大幅に上回る論文発表、マクレランド教授(カーネギーメロン大)の招待講演などで、予想どおりの盛会であった。

会誌発行は隔月刊も軌道にのり、編集委員会の長期的な企画と周到な準備のもとに、初めての論文特集を柱に各号技術特集を組むほか、引続き好調な投稿論文の掲載で会誌の充実をはかった。

研究会活動は、他学会研究会との共催を含め3研究会で計13回の研究会を開催、研究発表計106件、講演1回4件、パネル討論1回が行われた。

なお、事業委員会の研究部会3グループも、それぞれワークショップなど活発な活動を行った。セミナーは東京、大阪、名古屋で計3回開催、学生のための人工知能講演会は、岐阜大学、長崎大学、北海道大学で開催、いずれも好評であった。

来年度開催される国際会議2件

・[第1回計算論的学習理論国際ワークショップ(ALT'90)](1990/10/8~10)

・[環太平洋人工知能国際会議(PRICA I'90)](1990/11/14~16)

のため、それぞれ組織、プログラムなど各委員会が組織され、準備作業に着手した。

広報委員会を中心となって取り組む学会PRは、会員勧誘などでほぼ所期の成果を挙げた。

なお、現在進められている法人化への移行に対応するため、1990年度は評議員選挙(半数改選)を見送り、留任評議員のみで構成することとした。

2. 会員現況(1990年3月31日現在)

正会員	3,625名
学生会員	255名
賛助会員	143社
特殊購読会員	47団体

3. 会誌の発行

◇第4巻第3号(通巻15号)

・巻頭言、随想、特別講演[“Computer Chemistry”を拓く]、特集[第五世代コンピュータ] 解説8編、論文4編、その他で構成

◇第4巻第4号(通巻16号)

・巻頭言、チュートリアル連載[知識表現入門](第1回)、論文8編、その他で構成

◇第4巻第5号(通巻17号)

・巻頭言、チュートリアル連載[知識表現入門](第2回)、特集[定性推論] 解説10編、論文1編、その他で構成

◇第4巻第6号(通巻18号)

・巻頭言、チュートリアル連載[知識表現入門](第3回)、特集[機械翻訳] 解説6編/座談会、論文3編、ショートノート1編、その他で構成

◇第5巻第1号(通巻19号)

- ・巻頭言、招待論文 [Parallel Distributed Processing : Bridging the Gap between Human and Machine Intelligence]、チュートリアル連載 [知識表現入門] (第4回)、特集 [人工知能と定理証明システム] 解説4編、論文4編、ショートノート1編、その他で構成

◇第5巻第2号 (通巻20号)

- ・巻頭言、チュートリアル連載 [知識表現入門] (第5回)、論文特集 [エキスパートシステム] 論文9編その他で構成

4. 人工知能ハンドブックの発刊

学会設立とほぼ同時に発足した編集委員会 (12名) で準備を進め、執筆者195名、3年余をかけて90年2月に刊行された。総ページ数1,124ページの構成。

5. 1989年度全国大会 (第3回) の開催

前年度とほぼ同じ構成で第3回全国大会を開催した。

◇日時 1989年7月24日 (月) ~ 7月26日 (水)

◇場所 学習院大学・記念会館および西4号館

◇プログラム構成

・特別講演

[設計と人工知能] 吉川弘之 (東大)

・招待講演

[PDP : Bridging the Gap between Human and Machine Intelligence]

James L. McClelland (Carnegie-Mellon Univ.)

・パネルディスカッション [エキスパートシステムと人工知能理論]

司会 石塚 満 (東大生研)

出席者 平賀 譲 (図書館情報大)

寺野隆雄 (電力中研)

松原 仁 (電総研)

林 弘 (富士通研)

・一般講演

発表論文 194編

・参加者

1,205名 (内非会員245名、学生95名)

・優秀論文賞表彰

優秀論文 7編

・チュートリアル講演

講演者/演題 中川裕志 (常識推論・非単調理論)

麻生英樹 (電総研) [ニューラルネットワーク-最近の動向-]

沼尾正行 (東工大) [最新学習理論-EBL, chunking genetic

algorithm-]

原田 実 (青学大) [AIとソフトウェア工学]

松山隆司 (東北大) [知識型ビジョン]

渡辺正信 (日電) [知識獲得と学習]

乾 敏郎 (ATR) [並列処理と認知モデル]

参加者

301名 (第1日104名、第2日99名、第3日98名)

6. 研究会の開催

12月度研究会は3研究会合同、他学会との共催を含めて計13回の研究会を開催した。

◇人工知能基礎論研究会

・第6回

日時 1989年6月27日(火) 9時30分~17時
場所 東京大学生産技術研究所第1会議室(東京・六本木)
内容 研究発表9件
参加者 23名

・第7回

日時 1989年10月11日(水) 9時20分~17時
場所 北海道大学工学部A棟232講義室(札幌・北区)
内容 研究発表8件
参加者 15名

・第8回

日時 1989年12月6日(水) 13時~16時30分
場所 アルカディア市ヶ谷私学会館会議室(東京・市ヶ谷)
内容 研究発表3件
参加者 59名

・第9回

日時 1990年1月31日(水) 9時30分~17時
場所 京都大学工学部情報工学教室(京都・吉田)
内容 研究発表9件
参加者 38名

◇ヒューマンインタフェースと認知モデル研究会

・第6回《計測自動制御学会と共催》

日時 1989年5月29日(月) 10時~16時
場所 東京大学山上会館会議室(東京・本郷)
内容 研究発表7件
参加者 50名

・第7回

日時 1989年10月4日(水) 13時~17時
場所 東京大学生産技術研究所第1会議室(東京・六本木)
内容 研究発表5件
参加者 21名

・第8回

日時 1989年12月6日(水) 10時~16時30分
場所 アルカディア市ヶ谷私学会館会議室(東京・市ヶ谷)
内容 研究発表6件
参加者 59名

・第9回

日時 1990年2月2日(金) 10時~16時30分
場所 (財)ATR通信システム研究所(京都・精華町)
内容 研究発表6件
参加者 27名

◇知識ベースシステム研究会

・第7回《電子情報通信学会、CAI学会、日本教育工学会と共催》

日時 1989年4月22日(土) 9時30分~17時30分
場所 岩崎学園情報科学専門学校(神奈川・新横浜)
内容 研究発表28件

参加者 90名

・第8回

日時 1989年6月7日(水) 9時30分～17時

場所 森永プラザビル23F (東京・田町)

内容 研究発表7件

参加者 55名

・第9回《電子情報通信学会と共催》

日時 1989年10月24日(金) 9時～17時

場所 青山学院大学・総合研究所ビルディング12階会議室 (東京・青山)

内容 研究発表8件

参加者 65名

・第10回

日時 1989年12月6日(金) 13時～16時30分

場所 アルカディア市ヶ谷私学会館会議室 (東京・市ヶ谷)

内容 研究発表2件

参加者 59名

・第11回《電子情報通信学会と共催》

日時 1990年2月1日(木) 9時30分～16時40分

場所 (財)京都高度技術研究所 (京都・下京区)

内容 研究発表9件

参加者 39名

◇第1回合同研究会

日時 1989年12月7日(木) 9時～16時30分

場所 アルカディア市ヶ谷私学会館会議室 (東京・市ヶ谷)

内容 講演2件、パネル討論8名

参加者 51名

7. セミナーの開催

◇第8回人工知能セミナー [知識獲得] <大阪大学認知科学研究会共催>

・期 日: 1989年10月24日(火) 9時30分～16時30分

・場 所: 三田出版会大会議室 (大阪・梅田)

・プログラム:

<09:30～11:00> 総論

小林 重信氏 (東京工業大学)

<11:00～12:30> 知識獲得支援システム

篠原 靖志氏 (電力中央研究所)

<12:30～13:30> 休憩

<13:30～15:00> 戦略的知識の獲得

山口 高平氏 (静岡大学)

<15:00～16:30> 認知科学的観点から一概念学習一

錦見美貴子氏 (電子技術総合研究所)

・参加者 72名

◇第9回人工知能セミナー [自然言語処理]

・期 日: 1989年11月14日(火) 9時30分～16時30分

・場 所: 森永ビル23階会議室 (東京・田町)

・プログラム:

<09:30～11:00> 総論: 自然言語処理技術の展望

- 石崎 俊氏 (電子技術総合研究所)
 <11:00~12:30> 文法理論と構文解析
 松本 裕治氏 (京都大学)
 <12:30~13:30> 休 憩
 <13:30~15:00> 状況意味論・状況理論
 安川 秀樹氏 (ICOT)
 <15:00~16:30> 電子化辞書
 清野 正樹氏 (日本電子化辞書研究所)

・参加者 92名

◇第10回人工知能セミナー<東海エーアイ研究会共催>

・テーマ: [画像理解]

・期 日: 1990年1月30日(火) 9時30分~16時30分

・場 所: 愛知厚生年金会館会議室“鳳凰”<地下1階>(名古屋・地下)

・プログラム:

<09:30~11:00> 3次元画像理解

鳥脇純一郎氏 (名古屋大学)

<11:00~12:30> ロボットビジョン

辻 三郎氏 (大阪大学)

<12:30~13:30> 休 憩

<13:30~15:00> ヒューマンインタフェースと画像処理

岸野 文郎氏 (ATR通信システム研究所)

<15:00~16:30> 通信と画像理解

小林 幸雄氏

(NTTヒューマンインタフェース研究所)

・参加者 109名

8. 学生のための人工知能講演会の開催

◇第7回

・日 時 1989年6月16日(金) 13時30分~17時

・場 所 岐阜大学工学部201講義室

・講 演 <13:30~15:10>

人工知能の問題と展望

志村 正道 (東京工業大学)

<15:20~17:00>

自然言語処理と機械翻訳

野村 浩郷 (九州工業大学)

・参加者 約80名

◇第8回

・日 時 1989年11月10日(金)

・場 所 長崎大学工学部電気情報工学科第23番講義室

・講 演 <13:20~15:00>

ロボティクスとAI

辻 三郎 (大阪大学基礎工学部制御工学科)

<15:10~16:50>

最近の3次元画像処理とグラフィックス

鳥脇純一郎 (名古屋大学工学部情報工学科)

・参加者 約130名

◇第9回

- ・日 時 1990年1月24日(水) 13時30分～16時20分
- ・場 所 北海道大学工学部講義室
- ・講 演 <13:00～14:35>
エキスパートシステムの現状と動向
溝口理一郎(大阪大学産業科学研究所)
- <14:45～16:20>
音声対話システムにおける知識処理
白井 克彦(早稲田大学理工学部)
- ・参加者 約60名

9. 研究部会の活動

“知的ソフトウェア開発”、“知的データベース”、“知的コミュニケーションネットワーク”の3研究部会が発足準備を進め、それぞれ核メンバー会議ならびにワークショップを開催した。

◇知的ソフトウェア開発研究部会

・第1回ワークショップ

- 日 時 1989年8月18日(金)
- 場 所 東京大学先端科学技術研究センター(東京・駒場)
- 参加者 38名

◇知的データベース研究部会

・第1回ワークショップ

- 日 時 1990年1月18日(金)
- 場 所 文部省共済東京宿泊所・本郷会館(東京・本郷)
- 参加者 16名

◇知的コミュニケーションネットワーク研究部会

・第3回会議

- 日 時 1989年6月22日(木)
- 場 所 NTT武蔵野研究開発センター1-204会議室(東京・武蔵野市)
- 参加者 18名

・第4回会議

- 日 時 1989年9月21日(木)
- 場 所 KDD目黒研究所第一会議室(東京・目黒)
- 参加者 13名

10. ニュースレターの発行

学会活動の最新情報を会員に伝達するために、3回発行した。

◇ニュースレターNO. 11

第3回通常総会の開催、1988年度全国大会(第2回)の開催、10月度研究会の発表募集および協賛の催し物のお知らせを掲載し、6月に配布した。

◇ニュースレターNO. 12

10月度研究会/12月度研究会の開催、2月度研究会の発表募集、第5/6回人工知能セミナーの開催および協賛の催し物のお知らせを掲載し、9月に配布した。

◇ニュースレターNO. 13

1989年度全国大会(第3回)の論文募集、第7回人工知能セミナーの開催、2月度研究会の開催、4月度研究会の発表募集および協賛の催し物のお知らせを掲載し、1月に配布した。

11. 表彰

◇学会論文賞の贈呈

論文賞規程、論文賞候補選定細則にもとづき、会誌第3巻1号～第4巻第6号掲載の論文、ショートノートおよび技術資料計編を対象に、会員による推薦および候補選定委員会の審査を経て、下記の論文2編の著者に論文賞を贈呈した。

- ・ [初等幾何学の補助線問題におけるフラストレーションに基づく学習] (VOL.4, NO.3)
諏訪正樹、元田 浩
- ・ [Dempster-Shafer の確率モデルに基づく Evidential Reasoning 論理的意味に関する考察] (VOL.4, NO.3)
松山隆司

◇全国大会（第2回）優秀論文の表彰

発表論文194編を対象に、プログラム委員会査読委員の審査を経て、下記の論文7編の著者を表彰した。

- ・ 論文番号1-4 [非再帰的な述語サーカムスクリプションの一階論理式への等価変換]
岩沼宏治（山形大）、原尾政輝（九工大）
- ・ 論文番号3-5 [コンピュータ・グラフィックスを用いた探索実験による空間認知モデルの構築]
藤井秀夫、乾 敏郎（ATR視聴覚研）
- ・ 論文番号6-2 [モデルベース診断における経験的知識の学習] 古関義幸（日本電気）
- ・ 論文番号6-6 [集中定数系の構造記述からのデバイスモデルの構築]
空 一弘、藤原宏司、西田豊明、堂下修司（京大）
- ・ 論文番号8-14 [比喩を含む言語理解における視点の役割]
岩山 真、徳永健伸、田中穂積（東工大）
- ・ 論文番号11-43 [設計問題向け制約思考知識コンパイラにおける制約解析および手順生成について]
永井保夫（東芝）、寺崎 智（ICOT）
- ・ 論文番号12-10 [設計例の理解に基づく知識獲得インタビューシステム]
松田勝志、野村康雄（関西大）、馬場富雄、中島裕生（カヤバ工業）、川口敦生、溝口理一郎（阪大）

12. 共催、協賛、後援の催し物

次のとおり催し物の共催2件、協賛40件、後援1件により、他学協会と協調して学会活動の活発化、多様化を進めた。

《共催》

◇日本航空宇宙学会、人工知能学会、日本ロボット学会、航空宇宙技術研究所、宇宙開発事業団、宇宙科学研究所共催：宇宙用人工知能／ロボット／オートメーションシンポジウム（SAIRAS）（1989/10/18～19）

◇日本学術会議情報学研究連絡委員会、他主催：1990年情報学シンポジウム（1990/1/17～18）

《協賛》

◇Avignon 国際ワークショップ会議主催：The ninth edition of Avignon Workshop on Expert Systems & their Applications (May 30 ~ June 2, 1989) Avignon, France

◇MIV-89運営委員会主催：“International Workshop on Industrial Application of Machine Intelligence and Vision (MIV-89)” (64/4/10～12)

◇日本電子工業振興協会主催：国際翻訳技術フォーラム（1989/4/26～28）

◇電子情報通信学会・基礎境界グループ主催：[知的コミュニケーションと符号化] ワークショップ（89/6/2）

◇システム制御情報学会主催：セミナー「ニューラル／ファジィ 応用の可能性を探る」
<東京>（89/6/5～6）<大阪>（89/6/13～14）

◇計測自動制御学会関西支部主催：講習会「生体システムに学ぶー生体機能から自律分散へー」

(89/6/13)

- ◇日本能率協会主催：Computer Graphics Osaka' 89 [明日の産業と豊かな環境を統合する知的 computer Graphics] (1989/6/14~17)
- ◇国際ファジィシステム学会 (I F S A) 日本支部主催：第5回ファジィ・システム・シンポジウム(1989/6/2~3)
- ◇日本経済新聞社主催：A I ' 89(1989/7/3~6)
- ◇化学工学協会関西支部主催：支部開設35周年記念シンポジウム [シミュレーション・予測手法 - 化学産業への応用を考える] (1989/7/7)
- ◇バイオメカニズム学会主催：1989年バイオメカニズム学会学術講習会・シンポジウム <講習会> (1989/7/12~13)、<シンポジウム> (1989/7/13~14)
- ◇新世代コンピュータ技術開発機構主催：The Logic Programming Conference '89(89/7/12~14)
- ◇システム制御情報学会主催：セミナー [最新ソフトウェア開発環境を語る] (1989/7/13~14、7/19~20)
- ◇システム制御情報学会主催：第2回インテリジェントFAシンポジウム (1989/7/19~21)
- ◇IEEE Industrial Electronics Society、日本ロボット学会、ニューテクノロジー振興財団主催：IEEE International Workshop on Intelligent Robots and Systems '89 (IROS '89) - The Autonomous Mobile Robot and its Application - IEEE 知能ロボットとシステムに関するワークショップ '89 - オートノマスな移動ロボットとその応用 - (84/8/24~26)
- ◇(財) パーソナル情報環境協会 (P I E) 主催：'89 FRIEND 21 国際シンポジウム(1989/9/5~6)
- ◇視聴覚情報研究会 (A V I R G) 主催：AVIRG-SMC サマーセミナー [認識を再認識する] - しなやかな知能の実現に向けて - (1989/9/19)
- ◇計測自動制御学会関西支部主催：「知的システム構築の実践と将来」シンポジウム(89/9/21~22)
- ◇情報処理学会、精密工学会、他主催：第3回産業へのコンピュータ応用国際会議 (CAPE'89) (84/10/2~5)
- ◇精密工学会/日本ファジィ学会主催：講習会 [実用の時代に入ったファジィ制御] (1989/10/3)
- ◇計測自動制御学会主催：第32回自動制御連合講演会(89/10/4~6)電気通信大学(東京・調布)
- ◇(社) 日本産業用ロボット工業会、他主催：第20回国際産業用ロボット・シンポジウム (20th ISIR) (1989/10/4~6)
- ◇計測自動制御学会主催：[第15回システムシンポジウム] [第10回知識工学シンポジウム] 合同シンポジウム(1989/10/19~21)
- ◇計測自動制御学会主催：第5回ヒューマン・インタフェース・シンポジウム<講習会>(1989/10/25)、<シンポジウム>(1989/10/26~27)
- ◇日本ロボット学会主催：第7回日本ロボット学会学術講演会(1989/11/2~4)
- ◇計測自動制御学会主催：第4回生体・生理工学シンポジウム(1989/11/6~7)
- ◇学術会議・情報工学研連/工学アカデミー情報専門部会主催：[知識情報と知的コミュニケーションに関する国際シンポジウム] (1989/11/14)
- ◇文部省科学研究費重点領域研究『人間-機械・システム協調のための高次コミュニケーションに関する基礎的研究』総括班主催：文部省科学研究費重点領域研究『知的情報通信』第2回公開シンポジウム(1989/11/15)
- ◇情報処理学会/京都高度技術研究所主催：第1回演繹・オブジェクト指向データベース国際会議 (The First International Conference on Deductive and Object-Oriented Database ;

D000 89)(1989/12/4~6)

- ◇センシング技術応用研究会／(社)大阪府技術協会主催：89' センシング技術応用セミナー「ロボティクスにおけるセンシング技術の最先端」(1989/12/7~8)
- ◇日本産業用ロボット工業会主催：第40回産業用ロボット利用技術講習会
<東京>(1989/12/7~8)<大阪>(12/14~15)
- ◇テレビジョン学会主催：セミナー「画像処理の基礎と応用」(1989/12/19~21)
- ◇計測自動制御学会主催：特別講演会「AHP：基本的考えから新しい応用まで」(1990/1/22)
- ◇システム制御情報学会主催：第3回シグナル・システム・コントロール(SSC)シンポジウム(1990/1/23~24)
- ◇計測自動制御学会主催：第2回ロボットセンサシンポジウム－インテリジェント・センサをめざして－(1990/1/29~30)
- ◇文部省科学研究費重点領域研究『人間－機械・システム協調のための高次コミュニケーションに関する基礎的研究』総括班主催：文部省科学研究費重点領域研究『知的情報通信』第3回公開シンポジウム「知的ヒューマンインターフェイス」(1990/2/2)
- ◇システム制御情報学会主催：システム制御情報チュートリアル講座「ニューラルネットワーク情報処理の基礎と応用」(1990/2/2・9・16・23,3/2)
- ◇日本ファジィ学会主催：講習会「ファジィ理論の基礎」(1990/2/7~8)
- ◇(社)日本産業用ロボット工業会主催：第14回「産業用ロボット・フィルムフェスティバル」
<東京会場>(1990/2/23)<大阪会場>(2/28)
- ◇計測自動制御学会主催：第11回「知識工学・知能システムシンポジウム」(1990/3/12~13)
- ◇マイクロマシン研究会主催：第2回マイクロマシンシンポジウム(1990/3/14)
《後援》
- ◇日本原子力研究所主催：原子力におけるスーパーコンピューティング国際会議(90/3/12~16)

13. 会議

◇第4回通常総会

6月23日(金)に開催、出席者1,146名(うち委任状1,097名)、特別講演に引続き1988年度事業報告、1989年度事業計画などの議案審議、決裁ならびに1988年度論文賞表彰を行った。

◇理事会

8月を除く各月に計11回開催した。

◇1989年度評議員会

定例会議を5月26日(金)に開催、当日出席50名、総会議題、学会運営について審議を行った。

◇委員会

編集、研究会運営、事業、広報、法人化、企画、財務、庶務のほか新しく発足した国際的各委員会ならびに1990年度全国大会(第4回)開催準備のため設置された大会委員会および同プログラム委員会、PRICAI'90各委員会、ALT'90各委員会、人工知能ハンドブック編集委員会が随時開催された。

14. 契約締結、覚書交換、認可など

◇全国大会運営事務委託の覚書交換

1990年度全国大会(第4回)の準備着手に際し、運営事務を(株)連企画研究事務所に委託することとし、大会事務局(東京都港区浜松町2-12-14、第2日化ビル3階)を設けた。

以上

1989年度決算報告書(案)

貸借対照表(1990年3月31日)

1) 資産の部

科 目	金 額
1. 流動資産	
(1)現金預金	75,442,433
現金	(52,889)
預金	(14,389,544)
定期預金	(61,000,000)
(2)未収金	12,081,300
(3)前払い金	1,268,960
(3)担保金	1,162,000
(4)貸出金	2,101,000
流動資産計	[92,055,693]
2. 有形固定資産	
(1)備品	876,000
有形固定資産計	[876,000]
3. その他の固定資産	
(1)入居保証金	3,500,000
(2)電話架設料	145,600
その他の固定資産計	[3,645,600]
資 産 合 計	96,577,293

2) 負債の部

科 目	金 額
1. 流動負債	
(1)前納金	16,539,500
(2)預り金	4,310,156
(3)未払い金	770,868
流動負債計	[21,620,524]
2. 固定負債	
(1)国際会議積立金	12,000,000
(2)法人化準備基金	11,000,000
(3)退職金引当金	1,000,000
固定負債計	[24,000,000]
負 債 合 計	45,620,524

3) 正味財産の部

科 目	金 額
1. 基本財産	
(1)基本財産	35,000,000
基本財産計	[35,000,000]
2. 剰余金	
(1)次期繰越収支差額	15,080,769
(2)次期繰越増減差額	876,000
剰余金計	[15,956,769]
正 味 財 産 合 計	50,956,769
負債および正味財産合計	96,577,293

財産目録 (1990年3月31日)

科 目	金 額
(資産の部)	
1. 流動資産	
(1)現金預金 75,442,433	
イ)現金	
現金手持ち有り高	52,889
ロ)普通預金	
第一勧業銀行北沢支店 (代表幹事口座)	10,252,376
郵便貯金 (代表幹事口座)	1,169,159
三菱銀行代々木上原支店 (代表幹事口座)	118,212
第一勧業銀行北沢支店 (事務局長口座)	796,811
ハ)振替貯金	
東京振替貯金局	2,052,986
ニ)定期預金	
第一勧業銀行北沢支店	35,000,000
第一勧業銀行北沢支店	3,000,000
三菱銀行代々木上原支店	11,000,000
三菱銀行代々木上原支店	10,000,000
定額郵便貯金	2,000,000
(2)未収金 12,081,300	
イ)86年度会費	32,450
ロ)87年度会費	494,000
ハ)88年度会費	1,413,400
ニ)89年度会費	4,643,500
ホ)88年度会誌別刷り	138,600
ヘ)89年度会誌別刷り	1,546,000
ト)会誌印税	162,000
チ)会誌広告料	540,750
リ)研究会登録料	70,000
ス)研究会別刷り料	57,000
セ)セミナー参加料	106,600
フ)名簿予約料	339,000
ク)名簿広告料	2,538,000
(3)前払い金	
イ)会誌発行諸経費	1,268,960
(4)担保金	
イ)郵便物受取人払い担保金	1,162,000
(5)貸出金	
イ)全国大会運営費	2,000,000
ロ)A L T ' 9 0 運営費	101,000
2. 有形固定資産	
(1)備品 876,000	
イ)パソコン式	288,000
ロ)基本ソフトウェア1式	126,000
ハ)空調設備1式	410,000
ニ)金庫	52,000
3. 無形固定資産	
(1)入居保証金	3,500,000
(2)電話架設料	145,600
資 産 合 計	96,577,293

科 目	金 額
(負債の部)	
1. 流動負債	
(1)前納金	
イ)90年度会費	15,782,000
ロ)研究会登録料	757,500
(2)預り金	
イ)人工知能ソフト予約料	3,666,000
ロ)A L T ' 9 0 寄付金	600,000
ハ)会費充当金、他	44,156
(3)未払金	
イ)会誌別刷り印刷費	295,868
ロ)事務OA化費	475,000
2. 固定負債	
イ)国際会議積立金	12,000,000
ロ)法人化準備基金	11,000,000
ハ)退職金引当金	1,000,000
負 債 合 計	45,620,524
正 味 財 産	50,956,769

注1: 基本財産は定期預金35,000,000円。

注2: 固定資産の減価償却額はない。

[1] 収支計算の部 (自1989年4月1日～至1990年3月31日)

1) 収入の部

科 目	予 算 額	実 算 額	差 異
基本財産運用	500,000	495,798	▲4,202
入会金収入	580,000	1,066,000	486,000
正会員入会金	560,000	986,000	426,000
学生会員入会金	20,000	80,000	60,000
会費収入	51,670,000	53,286,000	1,616,000
正会員会費	27,520,000	28,992,000	1,472,000
学生会員	1,200,000	1,024,000	▲176,000
賛助会員会費	22,560,000	22,800,000	240,000
特殊購読会員会費	390,000	470,000	80,000
事業収入	27,070,000	28,876,523	1,806,523
会誌別刷料	2,952,000	4,232,000	1,280,000
会誌印税	1,038,000	982,800	▲55,200
全国大会参加費、他	12,250,000	13,928,195	1,678,195
セミナー参加費	2,460,000	2,274,000	▲186,000
フォーラム参加費	150,000	42,000	▲108,000
会誌など頒布代	1,500,000	1,191,500	▲308,500
会員名簿頒布料、他	3,400,000	3,493,500	93,500
研究会登録料、他	3,320,000	2,700,000	▲620,000
その他	0	32,528	32,528
雑収入	5,050,000	5,263,657	213,657
会誌広告料	4,410,000	3,991,250	▲418,750
郵送料	40,000	32,320	▲7,680
受取利息	600,000	1,240,087	640,087
当期収入合計	84,870,000	88,987,978	4,117,978
前期繰越収支差額	13,962,547	13,962,547	0
収入合計	98,832,547	102,950,525	4,117,978

2) 支出の部

科 目	予 算 額	実 算 額	差 異
管理費	23,823,000	24,789,126	966,126
家賃	1,875,000	1,860,180	▲14,820
共益費	67,000	66,435	▲565
光熱費	200,000	247,552	47,552
リース料 他	1,036,000	987,534	▲48,466
什器備品費	200,000	147,883	▲52,117
機械修理費	-	40,000	40,000
会議費	1,400,000	1,500,603	100,603
旅費交通費	250,000	311,920	61,920
通信費	2,000,000	3,249,508	1,249,508
印刷費	950,000	951,507	1,507
消耗品費	1,100,000	1,479,088	379,088
倉庫管理費	120,000	288,500	168,500
給料手当等	11,600,000	11,866,926	266,926
臨時雇用費	1,100,000	1,181,760	81,760
支払い手数料	40,000	61,776	21,776
雑費	185,000	120,593	▲64,407
資料購入費	145,000	167,705	22,705
研修費	50,000	43,600	▲6,400
OA強化費	500,000	0	▲500,000
保険料	5,000	4,000	▲1,000
福利厚生費	1,000,000	140,056	▲859,944
諸会費、その他	0	72,000	72,000
事業費	54,981,000	56,780,630	1,799,630
会誌発行費	26,723,000	28,113,899	1,390,899
会誌別刷印刷費	1,978,000	1,604,653	▲373,347
会誌執筆謝礼	528,000	443,804	▲84,196
会誌発行経費	900,000	900,000	0
全国大会開催費	12,250,000	13,794,032	1,544,032
セミナー開催費	1,757,000	1,769,930	12,930
フォーラム開催費	506,000	307,079	▲198,921
研究部会開催費	120,000	66,986	▲53,014
ニューズレター発行費	804,000	809,165	5,165
会員名簿発行費	3,573,000	3,023,473	▲549,527
地方講演会	742,000	721,021	▲20,979
研究会、他開催費	3,975,000	4,277,070	302,070
広報活動費	360,000	486,200	126,200
表彰費	60,000	46,350	▲13,650
会議費	705,000	416,968	▲288,032
引当金繰入額	4,300,000	6,300,000	2,000,000
国際会議積立金繰入額	2,000,000	3,000,000	1,000,000
法人化準備基金繰入額	2,000,000	3,000,000	1,000,000
退職金引当金繰入額	300,000	300,000	0
予備費	1,500,000	0	▲1,500,000
当期支出合計	84,604,000	87,869,756	3,265,756
次期繰越収支差額	14,228,547	15,080,769	852,222
支出合計	98,832,547	102,950,525	4,117,978

「2」正味財産増減計算の部
(自1989年4月1日~至1990年3月31日)

1) 増加の部

科 目	実 算 額
当期収支差額	1,118,222
当期増減差額	0
増加額合計	1,118,222

2) 減少の部

科 目	実 算 額
減少額合計	0

3) 合計の部

科 目	実 算 額
当期正味財産増加額	1,118,222
前期繰越正味財産額	49,838,547
期末正味財産合計額	50,956,769

会則改正（案）

<改正点>

法人化の準備に備え、本学会の会則を次の通り、第31条（解散）、第32条（残余財産の処分）を追加する。

<現 行>

第10章 会則の改正

第30条（会則の改正）

本会則は、理事会および総会に於て、おのおの4分の3以上の議決を経なければ、改正することはできない。

第11章 補 足

第31条（規則および細則）

本会則の実施についての規程および細則は、理事会の議決を経て、別に定める。

第32条（施行）

本会則は1986年7月24日より施行する。

付 則

第33条（初年度規定）

本会は、初年度にかぎり1年理事を置くことができる。

第34条（第6条改正の実施時期）

1989年6月23日付けの第6条の改正は、1990年4月1日より実施する。

<改正案>

第10章 会則の改正ならびに解散

第30条（会則の改正）

本会則は、理事会および総会に於て、おのおの4分の3以上の議決を経なければ、改正することはできない。

第31条（解散）

本会の解散は、理事会および総会に於て、おのおの4分の3以上の議決を経なければならない。

第32条（残余財産の処分）

本会の解散に伴う残余財産は、理事会および総会に於て、おのおの4分の3以上の議決を経、本会に類似の目的を有する公益法人に寄付するものとする。

第11章 補 足

第33条（規則および細則）

本会則の実施についての規程および細則は、理事会の議決を経て、別に定める。

第34条（施行）

本会則は1986年7月24日より施行する。

付 則

第35条（初年度規定）

本会は、初年度にかぎり1年理事を置くことができる。

第36条（第6条改正の実施時期）

1989年6月23日付けの第6条の改正は、1990年4月1日より実施する。

1990年度人工知能学会役員構成(案)

会 長	辻 三郎	大阪大学基礎工学部制御工学科/教授	(新任)
副会長	加藤 康雄	日本電気(株)/取締役	(留任)
副会長	志村 正道	東京工業大学工学部情報工学科/教授	(新任)
理 事	穂本 能彬	東京電力(株)システム研究所AI研究室/室長	(留任)
理 事	有川 節夫	九州大学理学部附属基礎情報学研究施設/教授	(留任)
理 事	稲垣 康善	名古屋大学工学部情報工学科/教授	(留任)
理 事	上野 晴樹	東京電機大学理工学部経営工学科/教授	(新任)
理 事	浦野 義頼	国際電信電話(株)上福岡研究所/次長	(留任)
理 事	大崎 幹雄	(株)シャープ情報システム研究所/副所長	(新任)
理 事	佐藤 繁	(株)富士通研究所/取締役	(再任)
理 事	下村 尚久	(株)東芝総合研究所/次長	(留任)
理 事	白井 克彦	早稲田大学理工学部電気工学科/教授	(再任)
理 事	諏訪 基	電子技術総合研究所情報科学部認知科学研究室/室長	(留任)
理 事	竹下 亨	日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所/理事	(留任)
理 事	田中千代治	三菱電機(株)開発本部/参与	(留任/再)
理 事	田中 英彦	東京大学工学部電気工学科/教授	(新任)
理 事	田中 穂積	東京工業大学工学部情報工学科/教授	(再任)
理 事	堂下 修司	京都大学工学部情報工学科/教授	(留任/再)
理 事	平川 顕名	島根医科大学/学長	(留任)
理 事	村上 国男	神奈川大学理学部情報科学科/教授	(留任)
理 事	元田 浩	(株)日立製作所基礎研究所/主管研究員	(新任)
理 事	横井 俊夫	(株)日本電子化辞書研究所/所長	(留任/再)
監 事	三木 弼一	松下電器産業(株)情報通信研究センター/所次長	(留任)
監 事	佐々木浩二	(株)アドイン研究所/代表取締役	(新任)
顧 問	榎本 肇	芝浦工業大学工学部工業経営学科/教授	(留任)
顧 問	福村 晃夫	中京大学情報科学部/学部長	(留任)

(理事は五十音順)

1990年度人工知能学会評議員名簿

1) 構成

大学関係	37名(留任37)
国立・公的機関関係	4名(留任4)
企業関係	26名(留任26)
合計	67名(留任67名、任期1年)

2) 大学関係

相磯 秀夫	慶応義塾大学環境情報学部長
池田 克夫	京都大学工学部情報工学科教授
伊藤 公俊	東京工業大学総合理工学研究科助手
岩井 壮介	京都大学工学部精密工学科教授
上野 晴樹	東京電機大学理工学部経営工学科教授
植村 俊亮	東京農工大学工学部電子情報工学科教授
白井 支朗	豊橋技術科学大学工学部情報工学系教授
小川 均	立命館大学理工学部情報工学科助教授
開原 成允	東京大学医学部附属病院中央医療情報部教授
喜連川 優	東京大学生産技術研究所第3部助教授
国井 利泰	東京大学理学部情報科学科教授
後藤 宗弘	岐阜大学工学部電子情報工学科教授
里村 洋一	千葉大学医学部附属病院医療情報部助教授
謝 章文	京都産業大学工学部情報通信学科助教授
志村 正道	東京工業大学工学部情報工学科教授
首藤 公昭	福岡大学工学部電気工学科教授
白井 英俊	中京大学文学部心理学研究室助教授
白鳥 則郎	東北大学電気通信研究所助教授
杉江 昇	名古屋大学工学部電気工学科教授
鈴木 宣夫	名古屋工業大学工学部電気情報工学科教授
滝沢 誠	東京電機大学理工学部経営工学科助教授
田中 克己	神戸大学工学部計測工学科助教授
田中 稔	広島大学工学部第2類助教授
田町 常夫	福岡工業大学工学部通信工学科教授
寺野 隆雄	筑波大学経営システム科学専攻/選任講師
戸田 正直	中京大学文学部心理学科教授
富山 哲男	東京大学工学部精密機械工学科助教授
西田 豊明	京都大学工学部情報工学教室助教授
野口 正一	東北大学電気通信研究所教授
萩原 宏	龍谷大学工学部電子情報学科教授
原口 誠	東京工業大学総合理工学研究科助教授
平井 有三	筑波大学電子・情報工学系助教授
廣瀬 通孝	東京大学工学部産業機械工学科助教授
福村 晃夫	中京大学情報科学部教授/学部長
堀 浩一	東京大学先端科学技術研究センター助教授
山田 博	中京大学情報科学部情報科学科教授
横田 將生	福岡工業大学言語情報研究所教授

2) 国立・公的機関関係

大島 正毅 電子技術総合研究所／知能システム部視覚情報研究室長
岸 義樹 製品科学研究所応用人間工学部情報機能課主任研究官
鈴木 道夫 (財)電力中央研究所／経済研究所情報システム部知識処理研究室長
古川 俊之 国立大阪病院／病院長

4) 企業関係

池田 純一 池田法律事務所(弁護士)
大崎 幹雄 シャープ(株)情報システム研究所副所長
尾上 守夫 (株)リコー／取締役中央研究所長
川戸 信明 (株)富士通研究所／人工知能研究部第一研究室長
北島 敬一 富士通エフ・アイ・ビー(株)システム本部次長兼技術開発部長
国藤 進 富士通(株)国際情報社会科学研究所第二研究部第二研究室長
黒川 利明 日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所
小泉 寿男 三菱電機(株)情報電子研究所システム・ソフトウェア開発部長
榊 博史 国際電信電話(株)上福岡研究所知能処理研究室主幹研究員
志村 則彰 カシオ計算機(株)取締役開発本部副本部長
鈴木 則久 日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所長
田中 庸平 中部電力(株)システム開発部次長
寺島 信義 日本電信電話(株)情報通信処理研究所自然言語処理研究部長
戸田 巖 日本電信電話(株)常務取締役研究開発技術本部長
中島 昌也 松下電器産業(株)／取締役情報通信研究センター所長
西島 誠一 (株)東芝／システムソフトウェア技術研究所長
似鳥 一彦 沖電気工業(株)研究開発本部総合システム研究所副所長
松浦 敏之 関西電力(株)工務室研究開発部
松波 正巳 (株)野村総合研究所／取締役技術本部長
南 正名 (株)東芝／総合研究所企画グループ部長
武藤 猛 日本デジタルイクイップメント(株)アプリケーションセンター次長
元田 浩 (株)日立製作所／基礎研究所主管研究員
森 健一 (株)東芝／総合企画部次長
柳生 孝昭 日本ユニシス(株)取締役
山本 英雄 国際電信電話(株)研究開発本部研究開発部長
渡辺 正信

<各分野ごとに五十音順>

以 上

1990年6月29日
法人化委員会

社団法人への移行について -法人化の経過および今後のスケジュール-

- (1)1986年7月24日 人工知能学会設立(任意団体)
文部省学術国際局学術情報課から、将来社団法人化のためのガイドライン(実績3年間、会員数2,000名、基本財産2,000万円以上、および定款など)を確認。
- (2)1988年11月25日 法人化委員会設置(第25回理事会にて)。
委員長 福村顧問、副委員長 大須賀会長、
幹事 佐々木理事、委員 石原・庶務委員長、
委員 佐藤・財務委員長、委員 田中(千)・企画委員長
- (3)1988年12月23日 文部省学術国際局学術情報課と打ち合せ。
- (4)1989年6月~ 法人化委員会本格活動(7月に学会設立満3年を経過)。
・文部省との打ち合せ計15回。
・法人設立申請審査用資料1式提出。
・人工知能について説明。
・他学会(情報処理、ロボット、など)との差異説明。
・定款の変更(評議員の役割、理事の定員、など)。
- (5)1990年4月20日 社団法人化の基本条件をすべて満足(実績丸3年間、会員数3,900名、基本財産3,500万円)。
- (6)1990年6月20日 文部省内部の法人設立申請第1次審査合格の連絡。
- (7)1990年6月29日 (社)人工知能学会設立発起人会開催(発起人は89年度および90年度の役員全員)。
- (8)同 上 人工知能学会第5回通常総会(解散決議)。
- (9)同 上 (社)人工知能学会設立総会(設立決議)。
- (10)未 定 文部省内部の法人設立申請第2次審査。
- (11)未 定 社団法人設立認可の正式申請。
- (12)未 定 (社)人工知能学会正式認可。

以上

社団法人 人工知能学会 設立趣意書

頭脳の働きに代わる機械が欲しいという人類の夢は、大量の数値データに対して複雑な計算を高速に行うという面では、電子計算機により実現された。現在の情報処理技術はこの意味においては、人間の能力をはるかに越えたものといえるが、一方、思考という本質的な面では、全くといっていいほど無力である。人工知能は大量の知識データに対して、高度な推論を的確に行うことを目指したものである。

それには人間の思考をモデル化し、これに適した新しい仕組みの計算機ハードウェアとソフトウェアを実現しなければならない。即ち、現在の計算機のように複雑なプログラムを人間が書き、それを逐次計算するのではなくて、人間が問題を自然語で与えるだけで、そのモデル化や解探索を一挙に行うことのできる仕組みを目指している。このため、単に計算機科学、数学、電子工学といった学問分野だけではなく、哲学、論理学、言語学、認知科学、生理学、生物学といった広範な学問分野との深い交流が不可欠である。人工知能は諸学問に共通な発見、創造、計画、設計、開発、評価、認識、理解、解析、分析、決定といった知的活動の基本を担うものであり、最近独自の学問分野として広く重視されるに到っている。

人工知能の応用としては、知識の活用を中心とする知識工学が提唱され、その適用の1つとして専門家の経験的、技術的知識を電子計算機に移植し、活用しようとするエキスパートシステムが計画、設計、診断、監視、制御など、産業、金融界に広く普及しつつある。例えば、計算機システムの機器構成決定、新材料設計、生産プラントの故障診断や制御、金融資産の運用、企業経営診断、医療診断などがある。さらに、自然言語、画像、図形などの認識や理解、また、学習といった分野へとその対象はますます広がりを見せている。例えば、機械翻訳、指紋印鑑照合、設備最適運転条件設定などをあげることができる。

人工知能が本格的に発展した折には、あらゆる機械が知能を持つという、全く新たな社会をもたらすものと思われる。すでに、学会や産業界に属する人工知能研究者の幅は広く、層が厚くなってきたため、その組織化の必要性が強く認識されている。また、この学問が情報処理工学、通信工学、システム制御工学、精密工学などとも関連して、本質的に学際的であることにかんがみ、同じ研究分野を分けもつ諸学会、諸団体の合同研究活動を促進するための中心的役割を果たすものとして、人工知能に関する新組織を構成する要望が強く打ち出されている。

当人工知能学会は、1986年7月設立以来、すでに4年の歳月を経過した。発足当初は、人工知能が新しい境界領域の学術であったこともあって、会の運営上多くの課題もあったが、学会誌の定期刊行、研究発表のための大会、各種の研究会ならびに内外の学識者によるセミナーの開催、人工知能に関する国際間の交流等の活動を通じて、国内的にも国際的にも相当高い評価を受けている。学会自体の構成も大きくなって、会員数4,000名を数えるにいった。当学会の活動が活発化するに及んで、国内において他の団体との関係も密接となり、国際的な連携も多く、30カ国以上の加盟する国際合同人工知能会議の主要メンバーとして活躍しているほか、数々の国際会議の協賛団体として国際的にも知名度が上がっている。

本年11月には、わが国でも当学会の主催する国際会議を開催する運びになった。このような時にあたり、今後の飛躍的な発展を期するために、当学会の在り方を検討してきたが、先ず当学会を法人格をもつ団体、即ち社団法人に改組し、人工知能に関する理論と応用の研究開発により一層の貢献をしようとするものである。